

子どもと女性の健康相談室

67



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授
西郡 秀和

十万人組の親子が参加する環境省の大規模な調査である「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」が二〇一一年より実施されています。調査目的は、子どもの成長・発達に影響を与える環境要因を明らかにすることです。具体的には、子どもが母親の胎内にいる胎生期から出生後の小児期にわたる化学物質の曝露（ばくろ）や食生活などを調べます。

この中で、私が特に注目しているいくつかの研究を紹介いたします。赤ちゃんが早く生まれてしまう早産のリスクを軽減することが期待される食

事、抗炎症食や発酵食品であることがわかりました。抗炎症食とは、活性酸素とラジカルの産生抑制や消去成分を多く含む食品である魚、緑黄色野菜、ベリー類、ナッツ類、緑茶などです。発酵食品は、みそ汁、納豆、ヨーグルトなどです。このことは、妊婦が食生活を改善することにより、早産予防につながる可能性を示しています。また興味深いことに、妊娠中につわりが重かった妊婦は早産のリスクが低いということも報告されてい

子どものために還元

ます。


成果は、現在までに約二百編が国際的な学術雑誌で報告されています。環境省のエコチル調査ホームページ（<http://www.env.go.jp/chemistry/publications.html>）上でも、その内容がわかりやすく公開されており、随時更新されています。

調査は、福島県を含む全国の十五ユニットセンターで行われています。福島県では一万三千組のご協力をいただいています。これは全国で最も多い参加数です。十万人規模の調査は、国際的にも

エコチル調査

エコチル調査の継続イメージ



エコチル調査は子どもが十三歳になるまで（）のようにフォローアップしながら継続します。現在は、子どもの乳幼児期の発達に関する解析が進んでおり、その報告が期待されます。エコチル調査から得られる成果は、国際的にも非常に貴重な情報です。未来の子どものために、今後とも皆さまのご協力とご支援をお願いいたします。

|| 次回は11月22日掲載 ||

ふくしま子ども・女性医療支援センター

<http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/>